

もっと知りたい

武者小路実篤

武者小路実篤はとても多くの友だちがいます。子供のころからの友だち、雑誌『白樺』の活動に参加した友だち、実篤を慕って親しくなった友だち、その関係はさまざまで、一人一人違います。しかし、お互いの個性を尊重し、思いやる気持ちに違いはありません。



◆白樺同人新年会 明治45(1902年)1月4日
前列左より二人目から志賀直哉、里見弴、柳宗悦、右端が有島生馬。
後列左より実篤、小泉鐵、高村光太郎、木下利玄。

ともだち③

さまざまな友情

きのした りげん 木下利玄



◆中等学科6年の時、初等学科時代の恩師を囲んで 明治36(1903)年6月
中列左より二人目 実篤、右端利玄。

木下と実篤は学習院初等学科1年生からの同級生でした。友だちのありのままを認め、その個性を前向きに伸ばそうとする姿勢の実篤。

友だちの悩みを誠実に応えた実篤の友だちへの思いに触れることができます。



◆武者小路実篤「曼珠沙華」
昭和30(1955)年
曼珠沙華の花を見て、木下の歌を思い出し、描いた作品。

あなたは？

●友だちの悩みに向き合ったことは？

*：「無車」は、実篤のこと。

（木下利玄日記 明治45年5月20日）

自分は人生を深く真面目に見られなくて不安だと云ったら無車はそりや性質だから仕方がない。君は綺麗に物を見ればいいと思う。メルヘンや小品のようなもので日本人の手をつけてないものが沢山あるんだからそう云う方を開拓するといいんだ。今更自然派の後をやったって仕方がない。西洋のそう云うものをよむといい。と云ってくれた。自分は適当な仕事があるような気がして嬉しかった。

こんな人

木下利玄 (1886~1925年)

歌人。本名は「としはる」。口語を取り入れ、平易で写実的な作風は利玄調とも呼ばれた。歌集に「銀」「紅玉」「一路」などがある。

せんげ もとまる
千家元麿

武者小路実篤を尊敬し、慕った千家元麿。

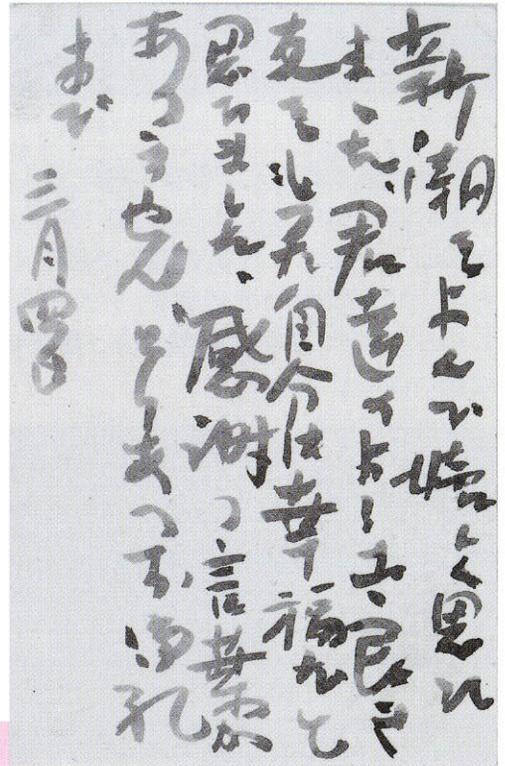
千家は実篤と出会う前に、実篤が古本屋へ売った本を買い求め、また、大正7(1918)年に実篤たちが設立した新しき村で生活しようと、実篤と一緒に行ったものの、自分の性格とあわず、数日で逃げ出してしまったエピソードがあります。

それでも二人の関係は変わらず、実篤も千家を「楽園の詩人」と書き、その純粋な詩を認めていました。

先輩として慕われた実篤の魅力が感じられる、友だち関係です。



◆千家元麿と実篤 大正8(1919)年4月 神奈川近代文学館蔵 新しき村へ向かう時。前列右から二人目が千家、中央が実篤。

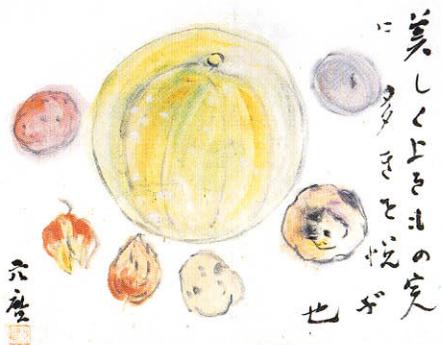


◆千家元麿より実篤あてはがき 大正9(1920)年3月4日
 「新潮をよんで嬉しく思ひ(い)ました。君達のような良き友をもった自分は幸福だと思ひました。感謝の言葉がありません。とりあへ(え)ず御礼まで。」

あなたは?

●尊敬できる先輩はいますか?

それは、どんなことですか?



◆千家元麿「野菜図」

実篤が好んで描いた野菜と言葉を添えた画と同じスタイルです。

こんな人

千家元麿 (1888~1948年)

10代から新聞・雑誌に短歌・俳句・詩を投稿。明治45(1912)年、岸田劉生と出会い、彼の紹介で実篤ら『白樺』同人と親しくなる。人道主義の立場から、平易な言葉で、自然と人生を讃美する詩を作った。